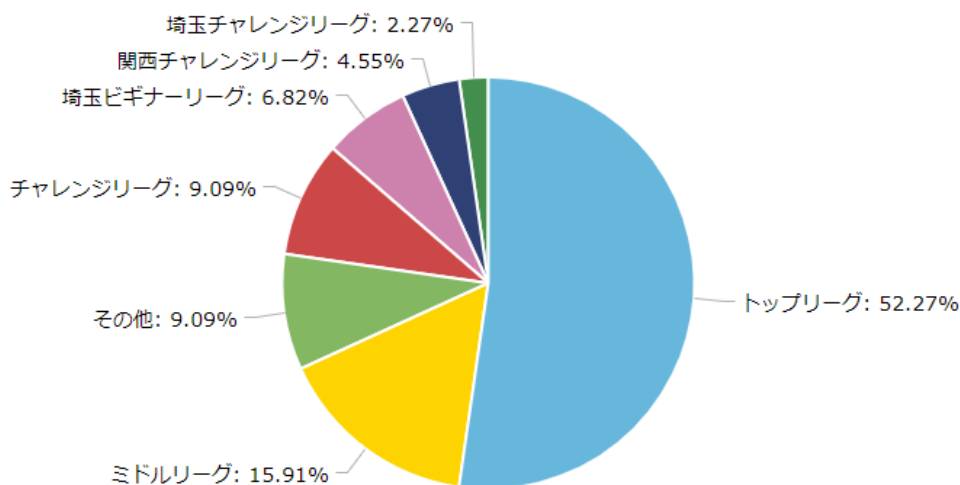


第2回センバツ AQL アンケート結果

第2回夏のセンバツ AQL 実行委員会代表 市川尚志

1. 今回の参加リーグ（アンケート回答者、複数回答可能）



2. 作問甲子園への参加

参加	30 チーム
不参加	5 チーム

3. 「夏のセンバツ AQL」の全体の継続について

可能な範囲で運営協力するので、ぜひ続いて欲しい	22 チーム
協力はできないかもしれないが、続いて欲しい	13 チーム
どちらでもよい	0 チーム
どちらかという今年で終わりにすべきだ	0 チーム
絶対に今年で終わりにすべきだ	0 チーム

4. 作問甲子園の継続可否

ぜひ続いて欲しい	27 チーム
どちらかといえば続いて欲しい	7 チーム
どちらでもよい	1 チーム
どちらかという今年限りとするべき	0 チーム
絶対に今年限りとするべき	0 チーム

【実行委員長コメント】

「センバツ」「作問甲子園」共に、多くの学校から継続のご希望をいただき、大変ありがたく思います。また「可能な範囲で運営協力するので、」という前向きな意見も多数いただきました。この大会は「中高生で創る」というのが第一コンセプトにありますので、皆様自身が「運営協力する」という意志があるというのは、大変嬉しいことです。

5. 「作問甲子園不参加チームを対象としたリーグ（ミドル・チャレンジリーグ）」の継続可否

運営を仕切る立場になってもいいので、作問してないチーム向けの大会も継続すべき	5 チーム
部屋の間読み進行などの運営を協力するので、作問してないチーム向けの大会も継続して欲しい	22 チーム
運営協力には積極的でないが、作問してないチーム向けの大会も継続して欲しい	7 チーム
運営協力には積極的でないし、どちらでもよい	0 チーム
(作問してないチームは) 夏のセンバツは対象外とすべき	1 チーム

【実行委員長コメント】

今回のセンバツ AQL は「中高生で創る」コンセプトを掲げ、初心者中心の「チャレンジリーグ」などの間読み・正誤判定などの運営の中心を中高生に任せる選択を取りました。「負担に感じる高校生はいないか」「イヤイヤやる学校が出てこないか」という点が大変不安だったのですが、多くの学校から協力に前向きな回答を頂きました。スタッフを務めた何人かの中高生にも直接伺いましたが、「このような新設校向けの場は絶対必要」「今まで会ったことがない地域の高校生に出題できて楽しかった」など、若いながら「クイズの普及」「クイズを皆で盛り上げていく」という「AQL の精神」に近い意識を持った方が多く、心強かったです。

もちろん、「作問してないチームは対象外とすべき」というご意見も理解できますし、その意見が大きければミドル・チャレンジは廃止することも考えておりました（本大会は「中高生で創る」がメインコンセプトですので、大学生以上を間読みとして借り出してミドル・チャレンジを行うことはしないと思います。それであれば、AQL 本戦の運営に注力したいためです）。来年、「中高生運営」によるチャレンジリーグ開催継続に対して、前向きに考えていきます。

6. 理想的なトップリーグのチーム数

27 チーム（午前午後 14 試合方式）	10 チーム
18 チーム（8 試合方式）	24 チーム
9 チーム（8 試合方式）	1 チーム

【実行委員長コメント】

今回のトップリーグは「高校生の皆さんが作った問題を、より多くの学校味わって欲しい」という考えのもと、AQL2019 一般の部で大学生以上の大人達が用いた「27 チーム 14 試合方式」を採用しました。ご満足いただけ方もいた一方で、丸一日早押しをするのは「疲れた」「体力的に厳しかった」というご意見も複数ありました。

運営としても 27 チーム方式の方が運営のハードルが上がることもあり、皆さんの希望を踏まえ来年は「18 チーム方式」への変更が濃厚です。

現時点での構想は以下です。ご意見等頂けると大変ありがたいです。

- ・トップリーグ 18 チーム（参加希望チームのうち、センバツポイント上位 18 チーム。42 問作問必須）
- ・ミドルリーグ 18 チーム（センバツポイント次点となる 19～36 番目相当。トップリーグと同日開催。作問任意、間読み必須。作問しないところはトップの問題を使わせてもらう）
- ・チャレンジリーグ（作問甲子園上位の応募問題を用い、トップミドル参加有志が運営。組分けはチャレンジリーグ内の実力別なども検討）

6. センバツへの自由記述（感想・意見）

【「楽しかった！」「疲れた！」など感想関連】

とても楽しかったです!!いろんな学校の人の問題をこんなにも聞く機会は全くなかったのでこのような機会を得てとても嬉しかったです。

埼玉からトップリグで参加したため、プレイヤー部門、作問、埼玉ビギナースタッフと、主に3役やらせて頂きました。公式な場への自作問の提供や運営スタッフは初めてだったのですが、ガイドラインや他の運営の方のアドバイスを参考に自分たちなりに協力できたと思います。オンラインで全国の強豪校とクイズをすることや、運営など、全てが貴重な体験でした。本当にありがとうございました。

(プレイヤー部門)コロナ禍という状況で、僕達北海道クイザーにとっては特に、本州の人達とクイズができる機会を頂けて大変嬉しかったです。(作問甲子園)普段作問をする機会がないので、作問の良さを知る良いきっかけになりました。

正直なところ疲労感があったが、普段は対戦しない学校とのチーム戦ができるのはとてもいい経験だと感じた。また、作問甲子園も「大人に作問を見てもらえる機会」が少ないので非常に有益な行事だと思った。コミュニティを広める上で、AQLというのは学校が呼びかけるよりも圧倒的に集まるので大切な役割を担っていると思う。なので、これからもぜひ継続して欲しい。

あまりない「団体戦形式」の大会であり、普段とは少し違った形でクイズを楽しめてすごい良い企画だと思えます。

運営等自分たちで試してみても楽しかった反面、なかなか忙しかったというのが率直な感想です。素晴らしい大会を企画してくださりありがとうございました。来年以降も、部として関わってみたいです。

作問、プレイヤー共にとても楽しませて頂きました。

プレイヤー部門では目標である〇位に滑り込むことができよかったです。作問甲子園は何位かは分かりませんが、少しは期待していたので、せめて10位以内に入りたかったです。今回の反省点はある程度分かっているので、次回はそれを踏まえて頑張ります。他の学校のレベルも高かったです。

自分たちの実力がわかる良い大会でした！また、自分たちが作った問題を読むという形式だったので、正解してくれると嬉しかったり、自分達と似たような問題を作ってる学校には親近感が湧いたり、そういった部分も楽しかったです。作問甲子園はぜひ続けてほしいです！！

オンラインというのもあると思いますが、長く感じました。でもとても楽しかったです！こんなに長くクイズに触れられる機会があまりないので貴重だと思います。問読みも楽しそうだなと思いました。来年も行っていたら嬉しかったです！

とても悔しかったです。何回も押し負けてしまい、本当に悔しかった！次回の大会までにもっと練習する機会をチームで沢山作っていきたくて考えています。ありがとうございました。問読みや運営の皆様ありがとうございました

一年生はチャレンジリーグ、二年生はミドルリーグで出場したが自分たちの未熟さを実感した。作問部門に関しても学校の行事用に作ったものの使い回しだったので次は大会用に作りたい。大会はチャレンジリーグの方で遅れがあったものの進行も分かりやすく慣れないdiscordでの開催であったが円滑に進んでいたと思う。

参加者としてもスタッフとしても楽しませてもらいました。大会の運営に関わることは人によっては貴重な体験なので、是非とも長期的に続けていただきたいです。

ンバー全員がいい経験ができたと思います。開催に携わってくださった皆さんありがとうございました!!

センバツ AQL という取り組みは、例年の各地方リーグの勝ち抜き戦とはまた違う AQL を楽しめる点で非常に

良かったと思います。

プレイヤーとしても運営としても楽しかったです。

高校ごとに個性が感じられる問題群がとても面白かったです。意外な問題もありましたが、事前に審査員の皆様から修正アドバイスをされていることがあるため、安心して早押しに集中できました。自作の問題群を著名なクイズプレイヤーの方々に審査していただく機会は減多になく、そのアドバイスは大変勉強になりました。本当にありがとうございます。高校生にとって作問の良い機会となったと同時に、問題のクオリティを審査員のおかげで上げることができるのが、作る側、答える側ともにプラスになっていると思いました。ただ、一日に14試合は疲れました…。

我が校は作問甲子園に出場させていただきました。主に1年生が中心となり、作問をしたのですが、課題が多く見つかって、改善していくいい機会になりました。また、クイズをする側だけでなく、クイズを作る側に立つことができ、貴重な体験をさせていただきました。大会を開いてくださり、ありがとうございました。今後ももっと精進できるように、部員一同努力していきたいです。

今回が初参加となりましたが、部員も全員楽しめた上、チャレンジリーグで〇位を取ることができ、部員も多かれ少なかれ自信がついたかと思います。レギュレーションが中高生のための団体戦はとて少ないので本戦のAQLのみならず、夏のセンバツAQLもぜひ続いてほしいと思っています。開催していただき、本当にありがとうございました！

楽しくクイズができ、とてもいい体験になりました。ありがとうございました。

【実行委員長コメント】

かなり前向きな意見が多く、運営一同大変嬉しく思います。ただ、前述の結果にもあるように、「トップリーグの1日14試合は疲れた」というご意見が多かったことも踏まえ、そのあたりの調整は今後行います。

【センバツへのご意見関連】

実行委員長としての現時点の回答が必要と判断したご意見について、返答いたします。あくまで現職の実行委員長の考えですので、ここで返答した内容のもと次回が開催されるとは限りません。

個人的に1つ感じたのは、作問に力を入れ過ぎるあまり、突飛な問題が多い問題群が見受けられたことです。ほどよくベタ問も混ぜた方が押しやすいなと思いました。

【実行委員長コメント】運営としてはいわゆる「ベタ問（よく出る問題）」を混ぜるか否かは各チームにお任せしています。各学校次第ですので、各出題校でご判断いただき、その結果としてどうなるかかと思います。

中高生が作る大会をスローガンにする以上仕方ないかもしれませんが、問読みされる方の中でのルール理解、共有が少し足りなかったように思います。（自分もです）次回開催される場合は、スタッフのお手を煩わせることになるかとは思いますが、問読み向けの講習などがあると助かります。

【実行委員長コメント】実行委員会としては、以下の共通ルールを設けております。

「AQL 問題出題ガイド」

<https://www.quizaql.com/questionguide/>

まず、こちらのルールの不徹底があったと思います。この点、来年以降出題についてのルールも徹底したいと思います。その上で、こちらではあえて最低限のルールしか定めておりません。特に問読みについては、色々な考え方があり、「このルール」と定めることはAQLとしてしたくないためです。以下、AQLとして共通で定めたルールを抜粋します。

- できれば事前に練習してください（特に出題経験の少ない団体は、一度は所属メンバーに下読みし、指摘を受けることを推奨します）。
- 特に、他の団体に問題を提供し問読みをお願いする場合、分からない漢字、間違えそうな漢字には、あらかじめルビをふってください。
- 「意図的に誤答を誘うような読み方」は避けてください。
- 読み間違いの影響で誤答があった場合、その問題を無効とし、1 問予備問題を補充してください。
- 問い読みスピードは各人に任せますが、早口すぎて聞き取れないような読み方は避けてください。

これら最低限の部分を、まず各チーム守ってほしいな、と考えております。

その上での運営方法については、回を重ねるごとに各チームで向上していってくれることを、運営としては願っています。

・各チームの正誤判定などの基準は主催で目を通し統一してほしい。この問読みでは正解・他では不正解・もう一度などブレが大きい。

【実行委員長コメント】 ご意見ありがとうございます。改めてですが、今回の大会は「生徒の皆様同士が問題を作りあい、成立させる競技」という認識です。作問甲子園で審査員はコメント致しましたが、修正は各チームに任せておりますし、運営も各チームにお任せする形になっています。よって、正誤基準まで大会側で修正することは、「夏のセンバツ」という形で開催する限り、積極的には行わない予定です。（作問甲子園審査員がコメントを残し、出題団体に修正のヒントを与えることはあり得ます）

この点、各チームがしっかり意識し、少しずつ運営レベルをあげていただけると、より大会としてのレベルも上がっていくことになると思います。

・相手チームがマナー違反をしたときに、運営スタッフが毅然とした対応をしてほしい。

・「今なんて読みましたっけ？」と相手チームが問読みに戻す事案があった。勝敗に大きく影響する事象である。

【実行委員長コメント】 マナー違反への対応は基本「判定者」たる出題チームが毅然と対応して欲しい、とは考えていますが、どうしても難しい場合大人がフォローすることもあってもよいかとは考えております。

来年以降はプレーヤー部門の方で、相撲の「三賞」みたいな賞を作って表彰しても面白いと思います。

【実行委員長コメント】 面白いとは思いますが、全試合を見て公平に評価する方法が困難なため、大会公式として導入は難しいと思います。

作問甲子園の開催の決定やその告知が4月頃であれば問題の質を上げられると思います。

【実行委員長コメント】 こちらは開催の場合は、早めの告知を検討させていただきます！

作問甲子園の問題をそのまま使うと、作成者が違うために出題被りなどが発生した。そのあたりには何かしらの改善が必要。

学校によって作る問題の難易度や質に大きな差が見られたため、もう少し統一出来るような仕組みがあると便利だと思う。

【実行委員長コメント】 こちらは事前に告知した通り、方式上修正は難しいです。「各セットは完全に独立したもので、それぞれ「偶然被ることはあり得る」という認識で挑戦していただければと思います。

トップリーグの午前のリーグ分けに使われた今までの AQL でのポイントは、今回は 2019 年以降の順位が反映されていましたが、中高クイズ界は 1 年で勢力が大きく変わるので、前年の順位だけをリーグ分けの指標にした方がよいと思いました。

【実行委員長コメント】大変鋭い、素晴らしいご指摘ありがとうございます。ご指摘の点、実行委員会としても大変迷って設定した部分で、様々な方式を事前に検討した上で現在の形としました。理由は以下です。

- 前年の順位だけでは対象大会が 2 大会となり、実質「前年の AQL 全国上位チーム」になってしまう。
- 前年行われた AQL 「以外の」大会結果をポイント化することも考えたが、「全国規模」で平等に参加できる大会は少ない（例えば「高校生オープン」「KQA 例会」などをポイント化したら、圧倒的に関東が優位となる）。またそれぞれの大会に対する許可も必要。
- 「2 年間」は、「1 年生が 3 年になり、高校で同じ生徒が残る」ギリギリの期間と判断。
- 「センバツポイントランキング」自体が、団体としての「中長期の目標(自分の直下の代も盛り上げていく)」の一つになってもらえれば、という思い。

以上を踏まえ、今後も「AQL の過去 2 年間」を対象にすることを考えております。

作問甲子園はエントリー数がこれ以上増えた場合、審査員の負担が多すぎるので、半分だけ先に読んで審査し、その審査の上位 10 校だけ残りの半分も読んで審査するなど方式を変える必要があると思いました。また、上位 10 校に入れなかった学校の残り半分の添削は審査員以外がやってもいいと思いました。

【実行委員長コメント】(直前の方と同じ方が書いたご意見です) こちらも大変鋭い、素晴らしいご指摘だと思います。今回は審査委員の負担が大きく、このままの方式では破綻が予想されます。次回はエントリーが多かった場合、運営として 25 チーム以上のエントリーがあった場合以下の方式を考えております。

- ・ 1 次審査は、審査委員を 3 グループに分け、出場者はどの審査グループで審査されたいかを選択。
 - ・ グループ定員は「エントリーチーム数/3 (小数点以下切上げ)」。定員多数の場合、問題提出の早い方が優先。
 - ・ 各グループの審査員で、「一次審査」を実施。各組上位 5 チーム計 15 チームが決勝進出
 - ・ 決勝進出した 15 チームの問題で、審査を行い、本年と同じ方式で上位チームを決定
- あくまで構想ですので、ご意見等頂ければと思います。

作問甲子園は大学生・社会人の方から問題にコメントをもらえるという点では非常に良いと思いますが、ランキング付けする必要は無いかもしれません。ミドルリーグ/チャレンジリーグから問題を提出した学校から 1 つを MVP として選ぶだけでも十分かなと個人的には思いました。

・ 作問力が上がるイベントであり、良いイベントだと考えるが、順位をつけるという形式は広い意見を問うべきだと考える。

【実行委員長コメント】ご意見ありがとうございます。今回は審査透明性の観点も踏まえ「上位 10 校の審査結果は、誰が何点をつけたか含め、詳細をすべて公開する」という方式を取りました。上位 10 校に入りたいという目標になり、全体の作問技術向上につながっていくのでは、という考えにも基づきます。「〇〇さんが、我々の問題を気に入ってくれた」ということも明確化されるのは励みになるのではないのでしょうか。また、11 位以下については傷つく生徒さんが出る可能性を踏まえ、発表しませんでした。(称えられるラインを、ベスト 10 までにした、ということです)

しかし、ご指摘の点も考慮し、これらについては「表彰対象校 (上位 3 チームと新設校部門入賞チーム)」のみ公開し、採点を明かさない方式も考えるべきかと考えております。運営でも迷っている面がございますので、後日 Twitter アンケートなどを取るかもしれません。

作問の指標の1つ「問題文は原則 60 文字以内」を変えてもいいと思いました。短文の問題という仕様上 abc を基準にすることは自然ではあるのですが、これはあくまで abc の作問ルールであり、AQL で新しいルールを始めてもいいかもしれないと思いました。問題文を少し長くすることによって作問をしやすくすれば、作問甲子園への初心者グループの参加が増えたり、学校ごとの色が出た問題が作りやすくなったりするかもしれないと考えます。また、文字数は音の数ではなく文字の数で決まるため、自然と問題でカタカナ言葉が使いにくくなると感じました。

【実行委員長コメント】「60 文字以内」は「原則」ですので、カタカナが多い場合などは例外と考えております。が、フォーマットにその点明記されておりませんでしたので、来年以降フォーマットにはその旨記載したいと思います。また、60 文字以内は「必須」というわけではありません（本年度も「ただし、文章が長いことで良さが出る問題はこの限りではありません。」と明記されております）。ただし、問題文が長文化していくことで、「1 試合 42 問が 15 分で終わる」という前提で設計されている AQL のタイムスケジュールにずれが生じるリスクがあり、AQL としてはこの「原則 60 文字以内」ルールは外さない予定です。

明らかに適正でないリーグに参加しているチームが幾つか見られたため、力量によってリーグを振り分ける仕組みが欲しかった。

【実行委員長コメント】最低限のシステムは作っておりますが（少なくともトップ校と完全初心者は当たらない）、今後チーム数が増えていきましたらシステムを随時見直したいと思います。

・問題不成立（時事変化）があったが、気づいたのはプレイヤーではなく見学であり、指摘できなかった。（学校帯同の見学者より）

【実行委員長コメント】大変難しい問題ですが、今の AQL としては「問題の間違いに気づいたか」も競われる要素の一つであり、「チャレンジ」というルールを設けております。ただ、明らかにおかしい問題について、見学者が意見を正すべきという考えもあります。しかし、これをやることで「同じチームを見学で応援する人が多い方が有利」という事態も起きえます。無難には「帯同見学者によるチャレンジも、1 回のチャレンジ」と数える、などでしょうか。どのような形にするかは、今後検討させていただきます。

・作問甲子園について、いわゆるここで基準を設けることが、クイズという多様性で成り立ってきたものの中で権威となることは、議論されるべき事案ではないか。

【実行委員長コメント】AQL としてはあくまで「(多様なクイズの一つである) AQL」という一大会で出題するのにふさわしい 42 問を審査する」という形をご提案させていただいた企画という認識です。よって、「唯一の権威」になることを望んでおりません（学校関係者の皆様に認めていただける「見た目」の部分はしっかり作っていきたいという思いはあります）。

他の形での「作問選手権」も並立することを、我々実行委員会としては期待したいと思います！また、そういった動きに対し、内容次第で我々 AQL とうまく連携することも可能では、と考えております。例えば、AQL と他団体と合同で「作問甲子園」を開催することにし、「AQL 部門」「〇〇部門」と複数分かれる、などですね。もちろん同じ看板を共有するので、〇〇部門の運営を責任持ってやっていただけることが大前提になります。

7. AQL に期待したいこと（センバツに限らず）

【AQL 会長コメント】 AQL 会長として、現在の考えを返答します。

本当に個人的な兼ねてからの願いなのですが、中学生（特に付属でない）の方々が競技クイズに触れる・知る機会を作れたらいいなと漠然と思っています。

【AQL 会長コメント】 我々も「漠然と」は同じところへの危機感があります。クイズ研のある中高一貫に所属しない限り、普通の中学生が「やるクイズ」に触れる機会が殆ど無いのは紛れもない事実でしょう。私が代表を兼務する埼玉リーグでは、自治体と組み、小中学校にピラを配って「クイズ体験企画」をやったりして、結果そこから参加した中学生がクイズ研を作ったという事例もありました。しかし、これを複数県で実現していくのはなかなか難しいところではあります。色々考えていきたいです！

多くの方々とクイズをしたいので、大会を開いて欲しいです

【AQL 会長コメント】 AQL としても、可能な範囲でやっていきます！他の方々にも期待して下さい！そして最後は自分でも開いてみることも検討してみてください！

関西チャレンジリーグでも上位入賞校には賞状が欲しい。

【AQL 会長コメント】 チャレンジリーグの上位入賞は現在表彰対象外ですが、関西リーグ代表に意見は伝えます。

特に要望はありませんが、僕達は AQL の大会が1つの大きな目標になっているので、これからも変わらず楽しい大会を続けていただきたいです！

【AQL 会長コメント】 ありがとうございます！

現状中高生と大学生・社会人のリーグが別なので、冬の AQL とは別に交流大会みたいなものを作って、大学生・社会人のチームと押し合ってみたいです。

もうやってる地域もありますが、地域リーグで一般の部とジュニアの部を同じ日にやってほしいです。時間が入らない場合は仕方ないですが、地域リーグの一般の部を見てこんなにすごい押しができるんだ、こんなふうな押しができるようになりたいと思う中高生は少なからずいると思います。

【AQL 会長コメント】 地域によってはジュニア・一般が対戦するところもございます。地域代表はその地域全体の空気を見ながらルールを設定しておりますので、ぜひ地域代表に意見を直接ぶつけてみて下さい。（地域リーグルールの決定権を持つのはその地域の代表です）

このような機会を作っていただいて、生徒たちもやりがいがあり、感謝しています。今までなら高校生クイズしか全国規模の大会はなく、4月の時点（私は4月に異動してきました）ではAQLの存在を知らなくて、昔クイズをしていた身ではあり久しくクイズから離れていましたが、お恥ずかしい限りでした。今後も生徒たちが1問でも多く答えられるように指導していきたいと思っています。自称、日本の高校生のクイズサークルの中で生徒に1番指導をしているクイズ好きのおじさんより。

【AQL 会長コメント】 先生からのありがたいコメント、嬉しいです。

なかなか交流試合の機会がなく、メンバーのモチベーションを上げるのに苦労しています。今回の大会はとても刺激になってよかったです。学校通しの交流ルームみたいなものがあると地方の中高はありがたいような…

【AQL 会長コメント】 中高生同士で運営している交流ルームが色々あるようなので、AQL としては積極的に皆さんに宣伝していただいています。「AQL として」となるとですが、AQL が大会用に作ったディスコードを使って交流などをしていただくのは歓迎ですよ！

いろいろなサークルにどのように作問しているのかということを知りたいです。

【AQL 会長コメント】 そのような仕掛け、AQL としてもできる範囲で色々考えてみます。(高校生の皆さん同士で動いていただくのも歓迎ですよ！)

所属学校に関係ない有志のチームが参加できる AQL があっても良いのかな、と思いました。

【AQL 会長コメント】 「所属学校にクイズ研がない人」については、所属学校に関係なく出場することを AQL としても積極的に認めております。ぜひ出場の際には相談して下さい。

「既存クイズ研に所属している人同士で、全く関係なく組んで競う団体戦」という点は、AQL 以外のクイズ大会で多数存在しておりますので、あえて我々がやるまでもないかな、というのが現在の私としての見解です。(AQL としては、他ではやりにくい学校の許可を取った「学校対抗」を重視していきたいです)

なお、「所属に関係ない AQL ルール団体戦をやりたいので、AQL のリーグ戦システムを使いたい！」という希望がありましたら、ご相談次第で許可しますのでお問合せ下さい！

・「クイズ」が高文連に加盟することはいつか実現してほしい目標です。その時は AQL だけではなく多くの大会が加盟できる状況であってほしいです。ですが、夏のセンバツ AQL はまだ 2 回目の開催ということもあり、今はまだ運営の皆さんに負担のかからない段階で地盤を固めていくのが先決かもしれないとも考えます。

・高文連への AQL の公式大会化や、地域連合の公式化は、実現できれば嬉しいです。学校非公認、または公認であるが正式な部活動としては認められず他の部への兼部が必須、といったクイズ研も多くあると思います。今後のクイズの発展のために、クイズを志す高校生が、堂々とクイズに打ち込むことができる基盤ができてほしいなあと思いました。

(他同様意見 1 件)

【AQL 会長コメント】 高文連にクイズ部門を作っていくことは、AQL として目標の一つではありますが。そこに向かう一丁目一番地として「全国すべての都道府県で、AQL 参加校が 3 校以上存在する」状況を目指したいところです。(高文連の定期大会「総文祭」は、各県持ち回りとなっており、ある年は岩手、次は高知・・・となったとき、関わる先生が全くいない県では主催が困難になります。)

もちろんアンケートで我々の負担も踏まえたありがたいコメントを頂きましたように、まずは「運営に負担がかからない段階で地盤を固めていく」ことが優先かと思います。

とにかく、皆様と共に一步一步盛り上げていきましょう！

・地域連合（KQA、CJQL、QuarK）や高校生オープンなどについて、AQL とうまく連携して公式なものにする（学校で表彰されるような）活動をして欲しい

・中高生のクイズ連合を公式大会にする…これは実現できるなら真っ先に実現してほしいです。今まで学校では表彰されなかったり、表彰されても賞状がネームプレートのみだったりしていたので。

（他同様意見 1 件）

【AQL 会長コメント】 高校生主体の地域連合（KQA、CJQL、QuarK 等）や高校生オープンなど「学生自身（あるいはその卒業生）が作っているクイズ」の運営レベルは相当高いと考えています。しかし、これが学校などの「社会」からほぼ認められていない状況なのは、いかんともしがたい状況と考えます。

AQL としてこの状況を打開できるような手助けをしいきたい思いはあります。例えば AQL が、生徒主催の大会結果に対し、各主催連盟と共同名義で賞状を発行する、といった支援はあり得るでしょう。あるいは AQL 公式サイト直下に「各高校生大会」特設サイトを作り、そこで中高生の皆さんの広報担当の方に「公式結果」としてアップしていただく、なども考えられます。「見た目」があれば、社会的な見られ方も変わっていく可能性があります。

ただし、ここで AQL として高校生のクイズ連合等を支援できるかどうかは一つのハードルがございます。端的に言えば「大人の介在を、主催している皆さんや、高校生の皆さんが、どの程度許容するか」です。

一つ例を出して説明します。AQL は、「学校名・個人名を出しての参加すること」「個人名や写真などを結果としてアップする可能性があること」について、「学校同意」「保護者同意」を得た上で大会を行っています（例えば法律的には未成年の「個人情報使用」「肖像権」を許可するのは保護者です。生徒の皆さんが OK といっても、保護者の方が許可しなければ、名前が載った結果や、顔が写った写真を、SNS にアップロードすることはできないのです）。こういったハードルを越えて開催しているからこそ、各校できちんと表彰が行われる大会になりつつあると考えています。

そして実はこの「学校同意」「保護者同意」では、「AQL 関連大会」への参加に対しても同時に許可を取っています。つまり、一つ手っ取り早い手としては、各大会が「AQL 関連大会」になればいいのです。しかし、「AQL 関連大会」となるには「AQL が定める安全基準を満たしながら開催している」ことが大前提で、その前提で各学校と保護者の許可を取っています。具体的には、

- （その大会に対し）20 歳以上の安全責任者がいる（学校の先生なども可能）
- （コロナの時期は）適切なコロナ対策を行っている。
- イベント保険に加入している（一人 10 円程度）
- 18 時までには大会を終わらせる

などなどです（ただし、クイズの中身は各大会の自主性に任せます）。詳細は以下です。

<https://www.quizaql.com/safetyrule/>

AQL が直接的に学生主体の大会を支援するためには、このルールを受け入れていただく必要があります。これは、「今まで中高生の自治だった地域連合に、大人が介入する」ことになるわけです。

そのことを皆さんは許容し、それでも AQL が絡むメリットを感じていただけるのでしょうか。「あえて中高生の自治を続けるべき」という考え方も間違いなくあるでしょうし、私もその考えにもある意味で賛同します。

また当然ですが、AQL としての「リソース（人員・金銭）」の問題もありますので、何でもかんでもお手伝いできるわけではありません。

もしこの文章を高校生主体の地域連合（KQA、CJQL、QuarK 等）の執行部の方や、高校生オープン主催の方がご覧になり、我々と一緒に「何かを変えていこう」と考えるのであれば、遠慮なく AQL 公式の窓口へ（あるいは AQL 会長の連絡先を知っていれば直接の方法で）ご連絡をください。「関連大会」になる以外の方法もあると考えており、多くの皆さんがよりハッピーになる、ベストな連携をお互いで考えていければと思います！